【緑地を楽しむ本】

『たねはいのちのおわりとはじまり』

鈴木純　著　　ブロンズ新社

シロツメクサの茶色くなった花が、かたまりのままボトッと落ち、そこから芽がでてくる写真が驚きだった。『シロツメクサはともだち』と同じ著者の新刊です。今作も楽しい写真が満載です。

さまざまなたねがさまざまな方法で移動して、芽生える様子。中でも、ひまわりが成長していく姿を追っているのですが、ぐいぐい背が伸び、大きな花が咲き・・・でも８日後には花がしおれてきて、11 月にはすっかりカサカサになって・・「もうおわかれだね」と思ったら、カサカサになっていたのは「たね」で・・・「かれて『さよなら』だと思ったけど、じつは『おかえり』でもあったんだ」と。「たね」がはじまりでもあり、おわりでもある、めぐる「いのち」であることがよく伝わります。

見開きいっぱいにいろいろなたねの写真もあり、ちゃんと原寸大の写真も添えられています。

あとがき的に、「たね」ということばについての解説があります。タンポポの綿毛の下についているふくらみは「果実」なのだと。えーっ！！果実と種子の関係も、ちょっと調べてみたくなります。

（遠藤）